



Japan M&A Solution

# 第6期

## 定時株主総会 招集ご通知

### 開催日時

2026年1月29日（木曜日）  
午前10時（受付開始 午前9時30分）

### 開催場所

東京都千代田区平河町二丁目4番1号  
都市センターホテル6階 601

### 決議事項

第1号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）2名選任の件

第2号議案 従業員に対するストック・オプションとしての新株予約権の募集事項の決定を当社取締役会に委任する件

### 目次

第6期定時株主総会 招集ご通知  
株主総会参考書類

第1号議案

第2号議案

事業報告

計算書類

監査報告書

### 議決権行使期限

2026年1月28日（水曜日）午後5時30分まで

ジャパンM&Aソリューション株式会社

証券コード：9236

証券コード9236  
2026年1月9日  
(電子提供措置の開始日2026年1月7日)

## 株主各位

東京都千代田区麹町三丁目3番8号  
麹町センターイスフ階  
ジャパンM&Aソリューション株式会社  
代表取締役社長三橋透

## 第6期定期株主総会招集ご通知

拝啓 平素は格別のご高配を賜り厚くお礼申し上げます。

さて、当社第6期定期株主総会を下記のとおり開催いたしますので、ご出席くださいますようご通知申し上げます。

本株主総会の招集に際しては電子提供措置をとっており、インターネット上の下記ウェブサイトに「第6期定期株主総会招集ご通知」として電子提供措置事項を掲載しております。

### 【当社ウェブサイト】

<https://jpmas.jp/ir/meeting/>



また、上記のほか、インターネット上の下記ウェブサイトにも掲載しております。

### 【東京証券取引所ウェブサイト】

<https://www2.jpx.co.jp/tseHpFront/JJK010010Action.do?Show=Show>



上記ウェブサイトにアクセスして、当社名又は証券コードを入力・検索し、「基本情報」「縦覧書類/PR情報」を順に選択のうえ、ご覧ください。

なお、当日ご出席願えない場合は、書面又はインターネット等によって議決権行使することができますので、お手数ながら電子提供措置事項に掲載の株主総会参考書類をご検討のうえ、同封の議決権行使書用紙に賛否をご表示いただき、2026年1月28日（水曜日）午後5時30分までに到着するようご送付くださいますようお願い申し上げます。

敬具

## 記

1. 日 時 2026年1月29日（木曜日）午前10時（受付開始 午前9時30分）

2. 場 所 東京都千代田区平河町二丁目4番1号

都市センターホテル6階 601

3. 目的・事項

【報告事項】

第6期（2024年11月1日から2025年10月31日まで）事業報告及び計算書類の内容報告の件

【決議事項】

第1号議案 取締役（監査等委員である取締役を除く。）2名選任の件

第2号議案 従業員に対するストック・オプションとしての新株予約権の募集事項の決定を当社取締役会に委任する件

以 上

~~~~~  
◎当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

◎議決権行使書面において、議案に賛否の表示がない場合は、賛成の意思表示をされたものとして取り扱わせていただきます。

◎電子提供措置事項に修正が生じた場合は、掲載している各ウェブサイトに修正内容を掲載させていただきます。

◎次の事項につきましては、法令及び当社定款の規定に基づき、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面には記載しておりません。従いまして、書面交付請求をいただいた株主様に対して交付する書面は、監査報告を作成するに際し、監査等委員会及び会計監査人が監査をした対象書類の一部であります。

① 計算書類の株主資本等変動計算書

② 計算書類の個別注記表

# 議決権行使についてのご案内

## 株主総会にご出席いただける場合



開催日時

2026年1月29日（木曜日）午前10時

（受付開始：午前9時30分）



当日ご出席の際は、お手数ながら同封の議決権行使書用紙を会場受付にご提出くださいますようお願い申し上げます。

## 株主総会にご出席いただけない場合



書面による議決権行使

行使期限

2026年1月28日（水曜日）午後5時30分到着分まで

同封の議決権行使書用紙に議案に対する賛否をご記入いただきご送付ください。



インターネット等による議決権行使 ▶ 詳細な議決権行使方法は次ページに記載しています。

行使期限

2026年1月28日（水曜日）午後5時30分まで

次頁のインターネット等による議決権行使のご案内をご高覧の上、画面の案内に従って、  
賛否を入力してください。

# インターネット等による 議決権行使のご案内

議決権  
行使期限

2026年1月28日（水曜日）  
午後5時30分まで

議決権行使  
ウェブサイト

<https://evote.tr.mufg.jp/>



## QRコードを読み取る方法

インターネットによる議決権行使は、スマートフォンまたはパソコン等から議決権行使ウェブサイトにアクセスいただき、画面の案内に従って行使していただきますようお願いいたします。

スマートフォンでの議決権行使は、

「ログインID」「仮パスワード」の入力が不要となります

同封の議決権行使書用紙副票（右側）に記載された「ログイン用QRコード」を読み取りいただくことで、ログインいただけます。



※QRコードは(株)デンソーウェーブの登録商標です。

## ！ご注意事項

- インターネットにより議決権行使される場合は、郵送によるお手続きは不要です。
- 郵送とインターネットにより、二重に議決権行使をされた場合は、インターネットによる議決権行使の内容を有効として取り扱わせていただきます。
- インターネットにより、複数回にわたり議決権行使をされた場合は、最終に行われた議決権行使の内容を有効として取り扱わせていただきます。

## 議決権行使サイトの操作方法に関するお問い合わせについて

三菱UFJ信託銀行株式会社 証券代行部（ヘルプデスク）

0120-173-027

(通話料無料、受付時間：9:00～21:00)

インターネットによる議決権行使は、スマートフォンまたはパソコン等から議決権行使ウェブサイトにアクセスいただき、画面の案内に従って行使していただきますようお願いいたします。

1

議決権行使ウェブサイトに  
アクセスする

① MUFG 三菱UFJ信託銀行  
株主総会に関するお手続きへようこそ  
（株主名簿管理者）三菱UFJ信託銀行販売代理部  
ホームページ  
(機密情報保護のご請求)

本サイトを利用し、株主総会に関するお手続きをされる場合、必ず事前に「本サイト利用規約」および「サイト利用ガイド」をご覧ください。

本サイト利用規約  
本サイト利用ガイド

上記記載内容をご了解された場合は、右の「次の画面へ」をクリックしてください。 [ 次の画面へ ]

なお、本サイトは午前2時30分から午前4時30分までの間、保守・点検のため取扱いを休止させていただきますことをあらかじめご了承ください。

「次の画面へ」をクリック

2

お手元の議決権行使書用紙の副票  
(右側)に記載された「ログインID」  
および「仮パスワード」を入力

ログインID、パスワードをご入力のうえ、「ログイン」を選択してください。

ログイン ID 4桁 - 4桁 - 4桁 - 3桁 (半角)

パスワード または仮パスワード 「ログイン」をクリック ログイン

パスワードを変更される場合は、ログインIDおよび現在ご登録されている  
パスワードをご入力のうえ、「パスワード変更」を選択してください。  
[ パスワード変更 ]

以降は画面の案内に従って賛否をご入力ください。

# 株主総会参考書類

## 議案及び参考事項

### 第1号議案

### 取締役（監査等委員である取締役を除く。）2名選任の件

取締役（監査等委員である取締役を除く。以下、本議案において同じ。）全員（2名）は本総会の終結の時をもって任期満了となりますので、取締役2名の選任をお諮りいたします。

なお、本議案について監査等委員会において検討がなされました。特段指摘する事項はない旨の意見表明を受けております。

取締役候補者は、次のとおりであります。

| 候補者番号 | 氏名                                                                      | 現在の当社における地位 | 取締役会出席状況 |
|-------|-------------------------------------------------------------------------|-------------|----------|
| 1     | 三橋 透<br><span style="border: 1px solid blue; padding: 2px;">再 任</span>  | 代表取締役社長     | 13回／13回  |
| 2     | 亀田 雅博<br><span style="border: 1px solid blue; padding: 2px;">新 任</span> | —           | —回／—回    |

候補者番号

みつはし とおる  
1 二橋透

取締役在任年数：6年2ヶ月\*本総会終結時

再任

(1964年6月2日生)

## 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

- 1987年4月 株式会社三和銀行（現 株式会社三井UFJ銀行）入行
- 2004年9月 クリーンエナジーファクトリー株式会社 取締役 就任
- 2007年3月 フィンテックグローバル株式会社 投資銀行本部シニアバイスプレジデント 就任
- 2009年6月 フィンテックアセットマネジメント株式会社 取締役 就任
- 2009年12月 フィンテックグローバル株式会社 取締役執行役員 投資銀行本部長 就任
- 2010年10月 フィンテックグローバル証券株式会社（現 株式会社FPG証券）取締役 就任
- 2012年4月 フィンテックアセットマネジメント株式会社 代表取締役社長 就任
- 2012年6月 三田ばさら株式会社 代表取締役 就任
- 2012年9月 すし青柳株式会社 代表取締役 就任
- 2013年2月 岡山ホールディングス株式会社（現 ベターライフハウス株式会社）代表取締役 就任
- 2013年9月 株式会社ベルス 取締役 就任
- 2014年2月 岡山建設ホールディングス株式会社 代表取締役 就任
- 2014年3月 ユニハウスホールディングス株式会社（現 株式会社ユニハウス）代表取締役 就任
- 2014年6月 ベターライフサポートホールディングス株式会社 代表取締役 就任
- 2014年10月 フィンテックアセットマネジメント株式会社 取締役 就任
- 2015年9月 城南開発株式会社 代表取締役 就任
- 2015年10月 株式会社ベルス 代表取締役 就任
- 2016年4月 ベターライフプロパティ株式会社 代表取締役 就任
- 2018年2月 フィンテックグローバル株式会社 入社
- 2018年3月 フィンテックM&Aソリューション株式会社 代表取締役 就任
- 2019年9月 株式会社リエゾン 代表取締役 就任
- 2019年10月 里村株式会社 代表取締役 就任
- 2019年11月 当社設立 代表取締役社長 就任（現任）
- 2020年4月 里村株式会社 取締役 就任
- 2020年12月 株式会社リエゾン 取締役 就任
- 2021年3月 三田ばさら株式会社 取締役 就任

## ■ 所有する当社の株式の数 560,000株

## (取締役候補者とした理由)

当社の創業者であります。代表取締役社長として、これまで当社の経営をけん引し企業価値向上にリードアップを發揮しております。当社の経営に精通しており、豊富な知識・経験は当社の企業価値向上に不可欠であるため、取締役候補者といたしました。

候補者番号

か め だ まさひろ  
**亀田 雅博**

(1962年4月3日生)  
社外取締役候補者  
独立役員

取締役在任年数：一年一ヶ月\*本総会終結時

新 任

## 略歴、地位、担当及び重要な兼職の状況

- 1986年4月 株式会社三和銀行（現 株式会社三菱UFJ銀行）入行  
2002年4月 UFJキャピタルマーケッツ証券株式会社 金融商品部長 就任  
2002年6月 UFJつばさ証券株式会社 金融商品部長 就任  
2005年10月 三菱UFJ証券株式会社 ストラクチャードプロダクト部長 就任  
2015年6月 三菱UFJモルガン・スタンレー証券株式会社 執行役員 就任  
2017年6月 同社 執行役員内部監査部長 就任  
2018年7月 同社 執行役員内部監査部長 兼 株式会社三菱UFJフィナンシャル・グループ執行役員 就任  
2020年4月 三菱UFJ証券ホールディングス株式会社 顧問 就任  
2021年7月 株式会社I R Robotics 常勤監査役 就任（現任）

### ■ 所有する当社の株式の数

一株

### （社外取締役候補とした理由及び期待される役割）

金融・証券業界における長年の経験により、経営全般に関する幅広い知見を有しており、業務執行を行う取締役から独立した客観的な立場からの有益な意見や提言をいただくうえで、適任であると考えております。取締役会の適切な意思決定と業務執行取締役に対する監督機能の強化に貢献いただけるものと期待しております。

- （注）1. 各取締役候補者と当社との間に利害関係はありません。  
2. 亀田雅博氏は社外取締役候補者であります。また、当社は、亀田雅博氏を東京証券取引所の定めに基づく独立役員に指定し、届け出る予定であります。  
3. 亀田雅博氏の選任が承認された場合、会社法第427条第1項の規定により、同法第423条第1項の責任を同法第425条第1項に定める最低責任限度額を限度とする責任限定契約を締結する予定であります。  
4. 当社は、保険会社との間で会社法第430条の3第1項に規定する役員等賠償責任保険契約を締結しております。当該保険契約では、被保険者が会社の役員等の地位に基づき行った行為に起因して損害賠償請求がなされたことにより、被保険者が被る損害賠償金や訴訟費用等が補填されることとなります。本議案に基づき各候補者の選任が承認された場合、各候補者は当該保険契約の被保険者に含められることとなります。なお、当社は、当該保険契約を取締役の任期中に同様の内容で更新することを予定しております。

## 第2号議案

### 従業員に対するストック・オプションとしての新株予約権 の募集事項の決定を当社取締役会に委任する件

会社法第236条、第238条及び第239条の規定に基づき、従業員に対するストック・オプションとしての新株予約権の募集事項の決定を当社取締役会に委任することにつきご承認をお願いいたしたいと存じます。

なお、本新株予約権は、当期純損失を計上する計算書類（当社第7期事業年度に係るものに限る。）が当社取締役会にて承認された場合には、当社が無償で本新株予約権を取得することができる取得条項付新株予約権であります。

#### 1. 特に有利な条件により新株予約権を引き受ける者の募集をすることを必要とする理由

当社の業績向上と企業価値向上への貢献意欲や士気を一層高めることを目的に、当社従業員に対し、金銭の払込みを要することなくストック・オプションとして新株予約権を無償で発行するものであります。付与基準といたしましては、付与時点において当社従業員であります。当社は、同種のストックオプション（新株予約権）を毎年継続的に発行してまいる予定でございます。

#### 2. 本総会において決定する事項に基づいて募集事項の決定をすることができる新株予約権の内容及び数の上限

下記のとおりとします。

#### 記

##### (1) その委任に基づいて募集事項の決定をすることができる新株予約権の数の上限

下記(3)に定める内容の新株予約権450個を上限とする。なお、新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式の数は、当社普通株式45,000株を上限とし、下記(3)①により付与株式数(以下に定義される。)が調整された場合は、調整後付与株式数に上記新株予約権の上限数を乗じた数を上限とする。

##### (2) その委任に基づいて募集事項の決定をすることができる新株予約権 金銭の払込みを要しないこととする。

##### (3) その委任に基づいて募集事項の決定をすることができる新株予約権の内容 ① 新株予約権の目的である株式の種類及び数

新株予約権の目的である株式の種類は当社普通株式とし、各新株予約権の目的である株式の数（以下、「付与株式数」という。）は100株とする。ただし、新株予約権を割り当てる日（以下、「割当日」という。）後、当社が当社普通株式につき、株式分割（当社普通株式の株式無償割当てを含む。以下、株式分割の記載につき同じ。）又は株式併合を行う場合には、付与株式数を次の算式により調整する。

$$\text{調整後付与株式数} = \text{調整前付与株式数} \times \text{株式分割・株式併合の比率}$$

また、上記のほか、割当日後、付与株式数の調整をすることが適切な場合は、当社は、合理的な範囲で付与株式数を調整することができる。なお、上記の調整の結果生じる1株未満の端数は、これを切り捨てる。

## ② 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額

各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、当該各新株予約権を行使することにより交付を受けることができる株式1株当たりの払込金額（以下、「行使価額」という。）に付与株式数を乗じた金額とする。行使価額は、割当日の属する月の前月の各日（取引が成立しない日を除く。）の東京証券取引所における当社普通株式の普通取引の終値（以下、「終値」という。）の平均値に1.05を乗じた金額（1円未満の端数は切り上げる。）又は割当日の前営業日の終値（当日に終値がない場合は、それに先立つ直近の取引日の終値）のいずれか高い金額とする。ただし、行使価額は以下の調整に服する。

- i 割当日後、当社が当社普通株式につき、株式分割又は株式併合を行う場合には、行使価額を次の算式により調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \text{調整前行使価額} \times \frac{1}{\text{株式分割・株式併合の比率}}$$

- ii 割当日後、当社が当社普通株式につき、時価を下回る価額で新株式の発行又は自己株式の処分を行う場合（会社法第194条の規定（単元未満株主による単元未満株式売渡請求）に基づく自己株式の売渡し、当社普通株式に転換される証券若しくは転換できる証券の転換、又は当社普通株式の交付を請求できる新株予約権（新株予約権付社債に付されたものを含む。）の行使による場合を除く。）には、行使価額を次の算式により調整し、調整の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。

$$\text{調整後行使価額} = \frac{\text{調整前行使価額} \times \frac{\text{既発行株式数} + \frac{\text{新規発行株式数} \times 1\text{株当たり払込金額}}{\text{時価}}}{\text{既発行株式数} + \text{新規発行株式数}}}$$

なお、上記の算式に使用する「既発行株式数」は、当社の発行済普通株式総数から当社が保有する普通株式にかかる自己株式数を控除した数とし、また、自己株式の処分を行う場合には、「新規発行株式数」を「処分する自己株式数」に読み替える。

- iii) さらに、上記のほか、割当日後、他の種類株式の普通株主への無償割当て又は他の会社の株式の普通株主への配当を行う場合等、行使価額の調整をすることが適切な場合は、かかる割当て又は配当等の条件等を勘案の上、当社は、合理的な範囲で行使価額を調整することができる。

#### ③ 新株予約権を行使することができる期間

新株予約権の付与決議の日後2年を経過した日から当該付与決議の日後10年を経過する日までの範囲内で、取締役会が決定する期間とする。

#### ④ 新株予約権の行使により株式を発行する場合において増加する資本金及び資本準備金に関する事項

- i) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金の額は、会社計算規則第17条第1項に従い算出される資本金等増加限度額の2分の1の金額とし、計算の結果生じる1円未満の端数は、これを切り上げる。
- ii) 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本準備金の額は、上記i)記載の資本金等増加限度額から上記i)に定める増加する資本金の額を減じた額とする。

#### ⑤ 譲渡による新株予約権の取得の制限

譲渡による新株予約権の取得については、当社取締役会の決議による承認を要する。

#### ⑥ 新株予約権の取得条項

以下のi)、ii)、iii)、iv)、v)又はvi)の議案につき当社株主総会で承認された場合（株主総会決議が不要の場合は、当社取締役会決議がなされた場合）若しくはvii)の場合は、当社取締役会が別途定める日に、当社は無償で新株予約権を取得することができる。

- i) 当社が消滅会社となる合併契約承認の議案

- ii 当社が分割会社となる分割契約若しくは分割計画承認の議案
  - iii 当社が完全子会社となる株式交換契約若しくは株式移転計画承認の議案
  - iv 当社の発行する全部の株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
  - v 新株予約権の目的である株式の内容として譲渡による当該株式の取得について当社の承認を要すること若しくは当該種類の株式について当社が株主総会の決議によってその全部を取得することについての定めを設ける定款の変更承認の議案
  - vi 当期純損失を計上する計算書類（当社第7期事業年度に係るものに限る。）の承認議案
  - vii 新株予約権者が権利行使をする前に、新株予約権を使用することができなくなった場合
- ⑦ 組織再編における再編対象会社の新株予約権の交付の内容に関する決定方針  
当社が、合併（当社が合併により消滅する場合に限る。）、吸収分割若しくは新設分割（それぞれ当社が分割会社となる場合に限る。）、又は株式交換若しくは株式移転（それぞれ当社が完全子会社となる場合に限る。）（以上を総称して以下、「組織再編行為」という。）をする場合において、組織再編行為の効力発生日（吸収合併につき吸収合併がその効力を生ずる日、新設合併につき新設合併設立株式会社の成立の日、吸収分割につき吸収分割がその効力を生ずる日、新設分割につき新設分割設立株式会社の成立の日、株式交換につき株式交換がその効力を生ずる日、及び株式移転につき株式移転設立完全親会社の成立の日をいう。）の直前において残存する新株予約権（以下、「残存新株予約権」という。）を保有する新株予約権者に対し、それぞれの場合につき、会社法第236条第1項第8号イからホまでに掲げる株式会社（以下、「再編対象会社」という。）の新株予約権をそれぞれ交付することとする。ただし、以下の各号に沿って再編対象会社の新株予約権を交付する旨を、吸収合併契約、新設合併契約、吸収分割契約、新設分割計画、株式交換契約又は株式移転計画において定めることを条件とする。

- i 交付する再編対象会社の新株予約権の数  
新株予約権者が保有する残存新株予約権の数と同一の数をそれぞれ交付する。
- ii 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の種類  
再編対象会社の普通株式とする。
- iii 新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数  
組織再編行為の条件等を勘案の上、上記①に準じて決定する。

- iv 新株予約権の行使に際して出資される財産の価額  
交付される各新株予約権の行使に際して出資される財産の価額は、上記②で定められる行使価額を組織再編行為の条件等を勘案の上、調整して得られる再編後払込金額に上記 iii に従って決定される当該新株予約権の目的である再編対象会社の株式の数を乗じて得られる金額とする。
  - v 新株予約権を行使することができる期間  
上記③に定める新株予約権を行使することができる期間の開始日と組織再編行為の効力発生日のうちいずれか遅い日から、上記③に定める新株予約権を行使することができる期間の満了日までとする。
  - vi 新株予約権の行使により株式を発行する場合における増加する資本金及び資本準備金に関する事項  
上記④に準じて決定する。
  - vii 譲渡による新株予約権の取得の制限  
譲渡による新株予約権の取得については、再編対象会社の取締役会の決議による承認を要する。
  - viii 新株予約権の取得条項  
上記⑥に準じて決定する。
  - ix その他の新株予約権の行使の条件  
下記⑧に準じて決定する。
- ⑧ その他の新株予約権の行使の条件  
新株予約権者が新株予約権を放棄した場合には、当該新株予約権を行使することができない。
3. 新株予約権のその他の内容  
新株予約権のその他の内容については、新株予約権発行に係る当社取締役会決議により定める。

以上

# 事業報告 (2024年11月1日から2025年10月31日まで)

## 1 会社の現況に関する事項

### (1) 事業の経過及び成果

当事業年度における我が国の経済は、雇用・所得環境の改善や堅調なインバウンド需要の拡大などを背景に、緩やかな回復基調を維持しております。一方で、不安定な国際情勢、資源価格の高騰に伴う物価上昇の継続及び海外の金融・通商政策など国内景気に与える影響への懸念が残り、依然として先行き不透明な状況が続いております。

当社の主たる事業領域である中堅・中小企業M&A市場は、依然として深刻な経営者の高齢化と後継者不在という社会課題を背景に、M&Aによる事業承継を主要な解決手段とするニーズが高まり、中長期的に拡大傾向を維持しております。加えて、近年では、事業承継目的のみならず、企業の新事業創造や成長戦略の実現を目的としたイノベーション型M&Aや、業界再編の手法としてのM&Aが中小企業にも広がりを見せ、市場のすそ野は拡大しております。

一方、市場の拡大に伴い、M&Aの支援の質と透明性の向上が強く求められています。これに対し、政府は「中小M&Aガイドライン」の改訂や、「中小M&A専門人材（個人）向けスキルマップ」の公表、また、自主規制団体によるルール策定など、官民一体となってM&A市場の健全な発展を促すための環境整備への取り組みを継続しております。

このような事業環境下で、当社は高まりを見せる売却ニーズに的確に対応し、1社でも多くの中堅・中小企業の事業承継を支援するため、戦略的な営業活動を強化いたしました。金融機関や会計事務所等の提携先の新規開拓が順調に進捗し、これに伴い、アドバイザリー契約数も順調に増加いたしました。また、提携先との連携を一層深め、地域の中小企業におけるM&Aニーズの早期発掘と質の高い支援実現のため、提携先向けの研修会や勉強会の実施についても引き続き強化を図っております。当事業年度においては、M&Aアドバイザーが35名（前期34名）となり、当社の重要指標である成約組数も69組（前期57組）と前事業年度と比較して増加いたしました。しかしながら、売上単価が低い小型案件の割合が高かったことに加え、会社の成長に必要な人材獲得に伴うコストが増加いたしました。

この結果、当事業年度における売上高は654,208千円(前期比8.6%増)、営業損失は56,652千円(前期は14,894千円の営業損失)、経常損失は52,623千円(前期は14,575千円の経常損失)、当期純損失は85,055千円(前期は11,524千円の当期純損失)となっております。

なお、当社は、M&Aアドバイザリー事業の単一セグメントであるため、セグメントに関する記載は省略しております。

## (2) 設備投資の状況

該当事項はありません。

## (3) 資金調達の状況

該当事項はありません。

## (4) 対処すべき課題

### ① 信用力の向上

ご依頼者はM&Aに様々な不安を抱きながら決断を行い、理想の譲受希望企業を求め、交渉を進めていくためM&Aアドバイザリー事業者を選定するうえで、これまでの実績・信用力を重視する傾向があります。そのため、当社が譲渡希望企業から選定されるためには、信用力の向上が必要不可欠であり、そのための体制構築が重要な経営課題と認識しております。信用力の向上のため、内部管理体制及びコンプライアンス体制の整備・充実等を図ってまいります。

### ② 人材の確保・教育の強化

当社は、M&Aアドバイザリー事業を持続的に成長させるために、最も重要な経営資源は人的資源であると考えており、多様な人材を継続的に採用、育成することが重要な経営課題であると認識しております。

そのため、当社の中期経営計画の重要戦略である人員計画に沿って、採用を行うとともに、教育を実施してまいります。

### ③ 案件の進捗管理

当社は、案件管理を行い、その進捗を提携先・ご依頼者に報告し、成約実績を積み上げていくことが当社の信用力向上につながると認識しております。そのため、ご依頼者と合意したスケジュールどおりにM&Aを実行する必要があり、案件の進捗管理が重要であると認識しております。そこで、案件の進捗管理においては、担当者による属人的な管理ではなく、組織的な管理が必要と考えております。週次の案件検討会や経営企画部による専門的かつ総合的なサポート等を通じ、徹底したスケジュール管理を実施しております。

### ④ 社内管理体制の強化

当社は、積極的な人員採用により組織が拡大していることから、情報漏洩や書類紛失等の当社の信用力に影響する事象を未然に防ぐための体制整備や提供業務の品質標準化等の社内管理体制の強化が必要であると認識しております。

この課題を解決すべく、社内規程や業務フローの整備、定期的な内部監査の実施等を通じて、社内体制の強化を行っております。

株主の皆様におかれましては、今後とも格別のご支援を賜りますようお願い申し上げます。

## (5) 財産及び損益の状況の推移

| 区分                           | 期別 | 第3期       | 第4期       | 第5期       | 第6期<br>2025年10月期<br>(当事業年度) |
|------------------------------|----|-----------|-----------|-----------|-----------------------------|
|                              |    | 2022年10月期 | 2023年10月期 | 2024年10月期 |                             |
| 売上高(千円)                      |    | 434,298   | 752,874   | 602,292   | <b>654,208</b>              |
| 経常利益又は経常損失(△)(千円)            |    | 61,343    | 168,333   | △14,575   | △52,623                     |
| 1株当たり当期純利益又は1株当たり当期純損失(△)(円) |    | 36.15     | 104.02    | △7.78     | △56.62                      |
| 当期純利益又は当期純損失(△)(千円)          |    | 43,311    | 125,023   | △11,524   | △85,055                     |
| 純資産額(千円)                     |    | 251,023   | 597,951   | 702,761   | <b>584,229</b>              |
| 総資産額(千円)                     |    | 316,713   | 752,390   | 770,749   | <b>668,190</b>              |
| 1株当たり純資産額(円)                 |    | 209.54    | 433.93    | 465.40    | <b>383.70</b>               |

(注) 2021年11月15日開催の取締役会決議に基づき、2022年1月1日付で普通株式1株につき2,000株とする株式分割を行っており、1株当たり当期純利益又は当期純損失(△)及び1株当たり純資産額は当該株式分割後の株式数に換算して記載しております。

## (6) 重要な親会社及び子会社の状況

該当事項はありません。

## (7) 主要な事業内容

| 事業           | 事業内容                                                          |
|--------------|---------------------------------------------------------------|
| M&Aアドバイザリー事業 | 対象会社の内容を調査し、株主の意向や従業員の安定雇用、取引先との関係、企業の発展などを考え、適したM&Aを提案しています。 |

## (8) 主要な営業所

| 名 称 | 所 在 地                            |
|-----|----------------------------------|
| 本社  | 東京都千代田区麹町三丁目3番8号<br>麹町センタープレイス7階 |

## (9) 従業員の状況

| 従 業 員 数 | 前期末比増減 |
|---------|--------|
| 41 名    | +2 名   |

(注) 従業員数は就業人員であり、臨時雇用者は存在しないため、記載をしていません。

## (10) 主要な借入先

該当事項はありません。

## 2 会社の株式に関する事項

- (1) 発行可能株式総数 4,700,000株  
 (2) 発行済株式の総数 1,519,300株  
 (3) 株主数 1,078名  
 (4) 大株主

| 株 主 名                   | 持株数   | 持株比率   |
|-------------------------|-------|--------|
| 三橋 透                    | 560千株 | 37.87% |
| UH Partners 2投資事業有限責任組合 | 116   | 7.88   |
| 株式会社ディア・ライフ             | 116   | 7.85   |
| 光通信KK投資事業有限責任組合         | 98    | 6.66   |
| 中島 秀浩                   | 48    | 3.30   |
| 株式会社玄武                  | 26    | 1.76   |
| 楽天証券株式会社共有口             | 20    | 1.37   |
| 大山 亨                    | 20    | 1.35   |
| 株式会社SBI証券               | 18    | 1.28   |
| UH Partners 3投資事業有限責任組合 | 17    | 1.15   |

(注) 当社は自己株式40,695株を保有しておりますが、上記大株主から除いております。また、持株比率は自己株式を控除して計算しております。

## 5 当事業年度中に職務執行の対価として会社役員に交付した株式の状況

該当事項はありません。

### 3 会社の新株予約権等に関する事項

#### (1) 職務執行の対価として交付した新株予約権の当事業年度末日における状況

- ・新株予約権の数  
13,656個
- ・目的となる株式の種類及び数  
普通株式 99,500株
- ・当社取締役、その他の役員の保有する新株予約権の区別別合計

|                          | 回次 (行使価額)      | 行 使 期 間                   | 個 数  | 目的である株式の種類及び数   | 保有者数 |
|--------------------------|----------------|---------------------------|------|-----------------|------|
| 取締役<br>(監査等委員及び社外取締役を除く) | 第8回 (130,600円) | 2027年2月28日<br>～2035年1月31日 | 140個 | 普通株式<br>14,000株 | 1名   |
| 社外取締役<br>(監査等委員を除く)      | 第8回 (130,600円) | 2027年2月28日<br>～2035年1月31日 | 20個  | 普通株式<br>2,000株  | 1名   |
| 社外取締役<br>(監査等委員)         | 第9回 (130,600円) | 2027年2月28日<br>～2035年1月31日 | 60個  | 普通株式<br>6,000株  | 3名   |

## (2) 当事業年度中に職務執行の対価として交付した新株予約権の状況

- ・新株予約権の名称

第8回新株予約権、第9回新株予約権、第10回新株予約権

- ・発行した新株予約権の数

第8回新株予約権160個、第9回新株予約権60個、第10回新株予約権435個

- ・新株予約権の目的となる株式の種類及び数

第8回新株予約権 普通株式 16,000株 (新株予約権1個につき100株)

第9回新株予約権 普通株式 6,000株 (新株予約権1個につき100株)

第10回新株予約権 普通株式 43,500株 (新株予約権1個につき100株)

- ・新株予約権の発行価額 (第8回新株予約権、第9回新株予約権、第10回新株予約権共通)  
払込を要しない

- ・新株予約権の行使価額 (第8回新株予約権、第9回新株予約権、第10回新株予約権共通)  
1個あたり1,306円

- ・新株予約権の行使期間 (第8回新株予約権、第9回新株予約権、第10回新株予約権共通)  
2027年2月28日～2035年1月31日

- ・新株予約権の行使の条件 (第8回新株予約権、第9回新株予約権、第10回新株予約権共通)

① 新株予約権の割当てを受けた者 (以下「新株予約権者」という。) は、権利行使時においても、当社の取締役 (監査等委員である取締役を含む) 及び従業員の地位、あるいは当社と何らかの業務委託契約を締結していることを要するものとする。但し、取締役会で個別に決議した場合はこの限りではないものとする。

② 新株予約権者が死亡した場合は、新株予約権の相続を認めないものとする。

③ 当社株式が日本国内のいずれかの金融商品取引所に上場していることを条件とする。

- ・当社従業員、当社子会社役員及び従業員に交付した新株予約権の区別合計

|       | 新株予約権の数 | 交付者数 |
|-------|---------|------|
| 当社従業員 | 435個    | 33名  |

(注) 当該新株予約権が付与された当社従業員33名のうち2名が退職したことに伴い、上記のうち10個（1,000株）は権利を喪失しております。

### (3) その他新株予約権に関する事項

当社は2025年12月19日開催の取締役会において、当社発行の第8回新株予約権、第9回新株予約権、第10回新株予約権の取得及び消却について決議し、2025年12月19日付けで当該新株予約権の全てを取得及び消却いたしました。

## 4 会社役員に関する事項

### (1) 取締役の氏名等

| 氏名      | 地位及び担当         | 重要な兼職の状況                                                                                                                                                       |
|---------|----------------|----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 三 橋 透   | 代表取締役社長        |                                                                                                                                                                |
| 今 崎 恭 生 | 取締役            |                                                                                                                                                                |
| 大 山 亨   | 取締役<br>(監査等委員) | 有限会社セイレーン 代表取締役<br>株式会社トラスティ・コンサルティング 代表取締役<br>IG証券株式会社 社外監査役<br>株式会社イオレ 社外監査役<br>フィンテックグローバル株式会社 社外取締役(監査等委員)<br>株式会社アズ企画設計 社外取締役(監査等委員)<br>株式会社Grooves 社外監査役 |
| 阿 部 慎 史 | 取締役<br>(監査等委員) | 阿部慎史公認会計士事務所 代表<br>株式会社セキュアイノベーション 監査役<br>ブレイクスルーパートナー税理士法人 代表社員<br>クオリップス株式会社 監査役                                                                             |
| 酒 井 奈 緒 | 取締役<br>(監査等委員) | サン綜合法律事務所 弁護士<br>有限会社ラックスキャピタル 代表<br>株式会社ノムラシステムコーポレーション 社外取締役(監査等委員)<br>株式会社ノマドロジーホールディングス 社外監査役<br>株式会社VISION 社外取締役(監査等委員)                                   |

- (注) 1. 今崎恭生氏、大山亨氏、阿部慎史氏、酒井奈緒氏は社外取締役であります。  
 2. 当社は監査等委員会の職務を補助するものとして、監査等委員会事務局を設置し、重要会議等を通じて情報収集を行うほか、内部統制システムを通じた組織的監査を実施することにより監査の実効性を確保していることから、常勤の監査等委員を選定しておりません。  
 3. 当社は、取締役今崎恭生氏、大山亨氏、阿部慎史氏及び酒井奈緒氏を株式会社東京証券取引所の定めに基づく独立役員として指定し、同取引所に届け出ております。  
 4. 阿部慎史氏は公認会計士・税理士であり、財務及び会計に関する相当程度の知見を有しております。  
 5. 酒井奈緒氏は弁護士であり、法律に関する相当程度の知見を有しております。  
 6. 取締役河合寿士氏は2025年1月28日開催の第5期定時株主総会終結の時をもって、任期満了により退任いたしました。  
 7. 監査役五十嵐敬喜氏は2025年1月28日開催の第5期定時株主総会終結の時をもって、任期満了により退任いたしました。

## (2) 責任限定契約の内容の概要

社外取締役今崎恭生氏、取締役（監査等委員）大山亨氏、阿部慎史氏、酒井奈緒氏は当社と会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償の責任限度額は、法令の定める最低責任限度額としております。

## (3) 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

### ① 被保険者の範囲

当社の全ての取締役

### ② 役員等賠償責任保険契約の内容の概要

被保険者が①の会社の役員としての業務につき行った行為（不作為を含む。）に起因して損害賠償請求がなされたことにより、被保険者が被る損害賠償金や争訟費用等を補償するものです。ただし、贈収賄などの犯罪行為や意図的に違法行為を行った役員自身の損害等は補償対象外とすることにより、役員等の職務の執行の適正性が損なわれないように措置を講じています。保険料は全額当社が負担いたします。

## (4) 当事業年度に係る取締役及び監査役の報酬等

### ① 取締役の個人別の報酬等の内容に係る決定方針に関する事項

取締役の報酬等の額の決定については取締役会の決議により決定いたします。

### ② 取締役及び監査役の報酬等についての株主総会の決議に関する事項

取締役（監査等委員である取締役を除く。）の金銭報酬の額は、2025年1月28日開催の第5期定時株主総会において年額500百万円以内（うち社外取締役100百万円以内。ただし、使用人兼務取締役の使用人分給与を含まない。）と決議されております。同じく、2025年1月28日開催の第5期定時株主総会において、当該報酬枠とは別枠で、対象取締役に対するストックオプションとしての新株予約権に関する報酬等の総額を、年額100百万円以内（うち社外取締役20百万円以内。）と決議されております。当該定時株主総会終結時点の取締役の員数は2名（うち、社外取締役は1名）です。

監査等委員である取締役の金銭報酬の額は、2025年1月28日開催の第5期定時株主総会において年額50百万円以内と決議されております。同じく、2025年1月28日開催の第5期定時株主総会において、当該報酬枠とは別枠で、対象監査等委員である取締役に対するストックオプションとしての新株予約権に関する報酬等の総額を、年額25百万円以内と決議されております。当該定時株主総会終結時点の監査等委員である取締役の員数は3名です。

監査役の金銭報酬の額は、2022年1月28日開催の第2期定時株主総会において年額50百万円以内と決議しております。なお、2025年1月28日開催の第5期定時株主総会終結時点において、監査等委員会設置会社に移行したため、当該定時株主総会終結時点の監査役はおりません。

### ③ 取締役の個人別の金銭報酬の額又は非金銭報酬等の内容の決定に係る委任に関する事項

#### ア. 基本方針

取締役の報酬等は、基本報酬及び非金銭報酬等で構成し、中長期的な企業価値向上を推進する動機付けや優秀な人材の確保に資する報酬体系及び水準とすることを基本方針としております。

#### イ. 基本報酬に関する方針

取締役会の委任決議に基づき代表取締役社長三橋透が取締役の個人別の基本報酬額の具体的な内容を決定しております。その権限の内容は株主総会で決議された基本報酬総額の範囲内で、会社の業績や経営内容、各取締役の担当職務、貢献度等を勘案して決定しております。

#### ウ. 非金銭報酬等に関する方針

非金銭報酬は、企業価値の持続的な向上を図るインセンティブを付与し、株主との一層の価値共有を進めることを目的に、株式報酬型ストックオプションとして支給いたします。その内容、数、支給時期及び条件等の内容については、代表取締役社長三橋透が役位、職責等を勘案して原案を作成し、取締役会の決議によって決定いたします。なお、非金銭報酬につきましては、業績等の経営状況その他諸般の事情を考慮して、支給しないことがあります。

#### エ. 報酬等の決定の委任に関する事項

取締役の個人別の報酬額の決定を代表取締役社長三橋透に委任した理由は、当社全体の業務を俯瞰しつつ各取締役の担当職や職責の評価を実施でき、当社を取り巻く経営環境等を熟知し、総合的に取締役の報酬額を決定できると判断したためであります。

才. 当事業年度における取締役の個人別の報酬等の内容が上記決定方針に沿うものであると取締役会が判断した理由

取締役の個人別報酬等の内容の決定にあたっては、代表取締役社長と社外取締役により構成される任意の指名報酬委員会の答申を踏まえて代表取締役社長が取締役の個人別の報酬額を決定していることから、取締役会はその内容が上記決定方針に沿うものであると判断しております。

#### ④ 取締役及び監査役の報酬等の総額等

| 役員区分                       | 報酬等の総額<br>(千円)    | 報酬等の種類別の総額(千円)    |          |                  | 対象となる<br>役員の員数<br>(人) |
|----------------------------|-------------------|-------------------|----------|------------------|-----------------------|
|                            |                   | 基本報酬              | 業績連動報酬等  | 非金銭報酬等           |                       |
| 取締役（監査等委員を除く）<br>(うち社外取締役) | 42,438<br>(5,023) | 38,250<br>(4,500) | —<br>(—) | 4,188<br>(523)   | 4<br>(2)              |
| 取締役（監査等委員）<br>(うち社外取締役)    | 9,670<br>(9,670)  | 8,100<br>(8,100)  | —<br>(—) | 1,570<br>(1,570) | 3<br>(3)              |
| 監査役<br>(うち社外監査役)           | 3,300<br>(3,300)  | 3,300<br>(3,300)  | —<br>(—) | —<br>(—)         | 3<br>(3)              |

## (5) 社外役員に関する事項

### ① 取締役 今崎 恭生

- ア. 重要な兼職先と当社との関係  
該当事項はありません。
- イ. 主要取引先等特定関係事業者との関係  
該当事項はありません。

#### ウ. 当事業年度における主な活動状況

当事業年度に開催された取締役会13回全てに出席いたしました。

経営全般に関わる事項や、内部統制に関わる事項等、多角的見地から有用な指摘、意見を期待しており、取締役会における助言や提言、指名・報酬委員会の活動等を通して、期待された役割を果たしております。

### ② 取締役（監査等委員） 大山 亨

#### ア. 重要な兼職先と当社との関係

有限会社セイレーン、株式会社トラスティ・コンサルティング、IG証券株式会社、株式会社イオレ、フィンテックグローバル株式会社、株式会社アズ企画設計、株式会社Groovesとは取引関係もないことから特別な関係はありません。

#### イ. 主要取引先等特定関係事業者との関係

該当事項はありません。

#### ウ. 当事業年度における主な活動状況

当事業年度に開催された取締役会13回全てに出席いたしました。また、当事業年度に開催された監査等委員会10回全てに出席いたしました。

証券会社で長い経験、株式上場コンサルタントとしての豊富な経験と幅広い専門的見識から、取締役会の意思決定の妥当性・適正性を確保するための発言を行っております。また、市場の動向、経営管理及びリスク管理等を踏まえて適宜、必要な発言を行っております。

③ 取締役（監査等委員） 阿部 慎史

ア. 重要な兼職先と当社との関係

阿部慎史公認会計士事務所、株式会社セキュアイノベーション、ブレイクスルーパートナーメンバー税理士法人、ワオリプラス株式会社とは取引関係もないことから特別な関係はありません。

イ. 主要取引先等特定関係事業者との関係

該当事項はありません。

ウ. 当事業年度における主な活動状況

当事業年度に開催された取締役会13回のうち12回出席いたしました。また、当事業年度に開催された監査役会3回のうち2回出席し、監査等委員会10回全てに出席いたしました。

公認会計士・税理士としての専門的知識と経験から特に会計及び財務及び内部統制に関する有用な指摘と意見を述べております。

④ 取締役（監査等委員） 酒井 奈緒

ア. 重要な兼職先と当社との関係

サン総合法律事務所、有限会社ラックスキャピタル、株式会社ノムラシステムコーポレーション、株式会社ノマドロジーホールディングス、株式会社VISIONとは取引関係もないことから特別な関係はありません。

イ. 主要取引先等特定関係事業者との関係

該当事項はありません。

ウ. 当事業年度における主な活動状況

当事業年度に開催された取締役会13回全てに出席いたしました。また、当事業年度に開催された監査役会3回全て出席し、監査等委員会10回全てに出席いたしました。

弁護士としての専門的知識と経験から特に法務・コンプライアンスに関する有用な指摘と意見を述べております。

## 5 会計監査人に関する事項

### (1) 会計監査人の名称

EY新日本有限責任監査法人

### (2) 報酬等の額

|                     | 支払額      |
|---------------------|----------|
| 当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額 | 21,000千円 |

- (注) 1. 当社と会計監査人との間の監査契約において、会社法に基づく監査と金融商品取引法に基づく監査の監査報酬等の額を明確に区分しておらず、実質的にも区分できませんので、当事業年度に係る会計監査人の報酬等の額にはこれらの合計額を記載しております。
2. 当社の監査等委員会は、会計監査人の監査計画の内容、会計監査の職務遂行状況及び報酬見積り等が当社の事業規模や事業内容に適切であるかどうか、日本監査役協会が公表する「会計監査人との連携に関する実務指針」を踏まえ必要な協議を行ったうえで、会計監査人の報酬等について同意の判断を行っています。具体的には、報酬金額とその根拠を確認し、前年度の会計監査の監査状況と本年度の監査計画を勘案して最終的に会社法第399条第1項の会計監査人の報酬等の同意を行っています。

### (3) 非監査業務の内容

該当事項はありません。

### (4) 会計監査人の解任又は不再任の決定方針

会計監査人の解任につきましては、会計監査人が会社法第340条第1項各号に定めるいずれかの事由に該当した場合、監査等委員会は監査等委員全員の同意により会計監査人を解任いたします。この場合、監査等委員会が選定した監査等委員は、解任後最初に招集される株主総会におきまして、会計監査人を解任した旨と解任の理由を報告いたします。また、上記の場合の他、会計監査人の職務遂行の状況、監査の品質等を総合的に勘案して、監査等委員会は会計監査人の解任又は不再任に関する議案の内容を決定し、取締役会は当該決定に基づき、当該議案を株主総会に提案いたします。

### (5) 責任限定契約の内容の概要

当社と会計監査人は、会社法第427条第1項の規定に基づき、同法第423条第1項の損害賠償責任を限定する契約を締結しております。当該契約に基づく損害賠償責任の限度額は、同法第425条第1項が定める最低責任限度額としております。

## 6 会社の体制及び方針

### (1) 取締役の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制その他業務の適正を確保するための体制及び当該体制の運用状況

- a. 取締役及び使用人の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するための体制
  - (a) 役職員の職務の執行が法令及び定款に適合することを確保するため、コンプライアンス（法令遵守）があらゆる企業活動の前提条件であることを認識し、「リスクマネジメント及びコンプライアンス規程」その他関連社内規程を定め、役職員に周知徹底を行っております。
  - (b) 取締役会は、法令等に基づく適法性及び経営判断の原則に基づく妥当性を満たすよう、「取締役会規程」に基づき業務執行の決定と取締役の職務の監督を行っております。
  - (c) 監査等委員は、内部監査担当者及び会計監査人との連携を図るとともに、法令等が定める権限を行使し、「監査等委員会規程」及び「監査等委員会監査基準」に基づき取締役の職務の執行を監査し、必要に応じて取締役会で意見を述べております。
  - (d) 内部監査担当者は、「内部監査規程」に基づき、役職員が法令、定款、社内規程等を遵守していることについて内部監査を実施しております。
  - (e) 法令違反その他のコンプライアンスに関する内部通報体制として、通報窓口を設け、「内部通報制度規程」に基づき適切な運用を行っております。
  - (f) 法令、定款等の違反行為が発見された場合には、取締役会において迅速に状況を把握するとともに、外部専門家と協力しながら適正に対応します。
  - (g) 財務報告の信頼性を確保するため、金融商品取引法その他関連法令に従い、財務報告に係る内部統制の整備及び運用を行います。
  - (h) 「反社会的勢力排除規程」を制定して全社的な反社会的勢力排除の基本方針及び反社会的勢力への対応を定め、社会の秩序や安全を脅かす反社会的勢力や団体を断固として排除、遮断することとしております。不当要求等の介入に対しては、速やかに関係部署、社外関係先（警察署、顧問弁護士等）と協議し、組織的に対応し、利益供与は絶対に行いません。

b. 取締役の職務の執行に係る情報の保存及び管理に関する体制

- (a) 取締役の職務執行に係る事項である議事録、会計帳簿、稟議書、その他の重要な情報等については、「文書管理規程」等を定めて情報管理の責任体制を明確化し、適切な保存及び管理を行っております。
- (b) 取締役、その他関係者は、これらの規程に従い、その職務遂行の必要に応じて前項の書類等を閲覧することができることとしております。
- (c) 個人情報については、法令及び「個人情報管理規程」及び「特定個人情報取扱規程」に基づき、厳重に管理します。

c. 損失の危険の管理に関する規程その他の体制

- (a) 事業に関する損失の危険（リスク）、不測の事態に対応すべく、「リスクマネジメント及びコンプライアンス規程」を制定し、同規程に基づき各部門長が潜在リスクを想定、顕在リスクの把握及び管理を行っております。
- (b) リスク管理推進委員会を設置し、当社の事業活動における各種リスクに対する予防・軽減体制の強化を図っております。
- (c) 不測の事態が発生した場合には、代表取締役社長を本部長とする対策本部を設置し、顧問弁護士等の外部専門家と連携し、損失の拡大を防止し、これを最小限にすべく体制を整えております。
- (d) 役職員に対し、コンプライアンス及びリスク管理に関する教育・研修を継続的に実施いたします。

d. 取締役の職務の執行が効率的に行われることを確保するための体制

取締役会は「定款」及び「取締役会規程」に基づき、定期取締役会を毎月1回開催する他、必要に応じて、臨時取締役会を開催しております。

取締役の職務執行については、「組織規程」、「職務分掌規程」及び「職務権限規程」を制定し、各職位の責任・権限や業務を明確にし、権限の範囲内で迅速かつ適正な意思決定、効率的な業務執行が行われる体制を構築することとしております。

取締役は、緊密に意見交換を行い、情報共有を図ることにより、効率的、機動的かつ迅速に業務を執行することとしております。

中期経営計画により、中期的な基本戦略、経営指標を明確化するとともに、年度毎の利益計画に基づき、目標達成のための具体的な諸施策を実行しております。

e. 監査等委員会がその職務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合における当該使用人に関する事項及び当該使用人の取締役からの独立性に関する事項

- (a) 監査等委員会が監査等委員の業務を補助すべき使用人を置くことを求めた場合には、専任または兼任の使用人を設置することとしております。
- (b) 当該使用人の人事評価、人事異動等については、監査等委員会の同意を要するものとし、当該使用人の取締役からの独立性及び監査等委員会の指示の実効性の確保に努めております。

f. 当社の取締役（監査等委員である取締役を除く）及び使用人が監査等委員である取締役に報告をするための体制、その他監査等委員への報告に関する事項

- (a) 役職員は、重大な法令・定款違反及び不正行為の事実、又は会社に著しい損害を及ぼす恐れのある事実を知ったときには、速やかに監査等委員に報告することとしております。
- (b) 代表取締役社長は、内部通報制度による通報状況を監査等委員会へ報告しております。
- (c) 監査等委員は、重要な意思決定の過程及び業務の執行状況を把握するため、取締役会、経営会議その他の重要な会議に出席し、意見を述べるとともに、必要に応じて役職員に説明を求めること及び必要な書類の閲覧を行うことができることとしております。
- (d) 監査等委員会へ報告を行った役職員に対して、当該報告をしたことを理由として不利な取扱いを行うことを禁止し、その旨を周知徹底しております。

g. その他監査等委員の監査が実効的に行われることを確保するための体制

- (a) 監査等委員は、代表取締役社長、取締役（監査等委員である取締役を除く）、内部監査担当者及び会計監査人と定期的な意見交換を実施し、適切な意思疎通及び効果的な監査業務の遂行を図っております。
- (b) 監査等委員がその職務の執行について、必要な費用の支払いあるいは前払い等の請求をしたときは、担当部署にて精査の上、速やかに当該費用又は債務を処理することとしております。

h. 財務報告の信頼性を確保するための体制

適正な会計に関する記録や報告を行うとともに、財務報告の信頼性を向上させるため、一般に公正妥当と認められる企業会計の基準を遵守し、財務報告に係る内部統制の体制整備と有効性の維持・向上を図っております。

i. 反社会的勢力との取引排除に向けた基本的考え方及びその整備状況

(a) 反社会的勢力との取引排除に向けた基本的な考え方

- イ. 当社の行動規範、社内規程等に明文の根拠を設け、社長以下組織全員が一丸となって反社会的勢力の排除に取り組んでおります。
- ロ. 反社会的勢力とは取引関係を含めて一切関係を持ちません。又、反社会的勢力による不当要求は一切を拒絶しております。

(b) 反社会的勢力との取引排除に向けた整備状況

- イ. 反社会的勢力対応運用細則において基本方針について明文化し、全社の行動指針としております。
- ロ. 反社会的勢力の排除を推進するために管理部が一元管理を行い、各拠点では最初の接触を拒否し、各所属長より管理部に報告しております。
- ハ. 反社会的勢力対応規程等の関係規程等を整備し、反社会的勢力排除のための体制構築に取り組んでおります。
- 二. 取引先等について、反社会的勢力との関係に関して確認を行っています。
- ホ. 反社会的勢力の該当有無の確認のため、外部関係機関等から得た反社会的勢力情報の収集に取り組んでおります。
- ヘ. 反社会的勢力からの不当要求に備え、平素から警察、全国暴力追放運動推進センター、弁護士等の外部専門機関と密接な連携関係を構築しております。

## (2) 株式会社の支配に関する基本方針

当社は、現時点で当該「基本方針」及び「買収防衛策」につきましては特に定めておりません。業務の更なる改善を図ることにより、企業価値の一層の向上を目指しております。今後の社会的な動向も見極めつつ、慎重に検討を進めてまいります。

## (3) 剰余金の配当等の決定に関する方針

当社は、財務基盤の強化と事業の持続的な拡大・成長を目指していくために、まずは内部留保の充実と事業推進に必要な投資活動を積極的に行っていくことが重要と考え、創業以来配当を実施しておりません。しかしながら、株主の皆様への利益還元を重要な経営課題として認識しており、今後の経営成績及び財政状態を鑑みつつ、事業・投資計画、事業環境等を総合的に勘案し、内部留保とのバランスをとりつつ配当について検討していく方針であります。

内部留保につきましては、企業体質の強化及び将来の事業展開のための財源としてM&Aアドバイザリー事業の営業活動を行うにあたっての専門知識及び経験を有する人材の採用の強化及び事業拡大に必要不可欠な拠点の設置への投資として有効に活用していく所存であります。

当社の剰余金の配当は、期末配当の基準日を10月31日とする年1回を基本としており、配当の決定機関は株主総会であります。また、当社は取締役会の決議により、毎年4月30日を基準日として中間配当を実施することができる旨を定款に定めております。

---

(注) 本事業報告中の記載金額・株数は、表示単位未満を切り捨てて表示しております。

# 計算書類

## ■ 貸借対照表

2025年10月31日現在

(単位：千円)

| 科目              | 金額      | 科目                   | 金額      |  |
|-----------------|---------|----------------------|---------|--|
| <b>(資産の部)</b>   |         |                      |         |  |
| 流 動 資 產         | 614,231 | 流 動 負 債              | 83,961  |  |
| 現 金 及 び 預 金     | 604,150 | 買 掛 金                | 8,569   |  |
| 前 渡 金           | 1,815   | 未 払 金                | 6,085   |  |
| 前 払 費 用         | 7,972   | 未 払 費 用              | 45,758  |  |
| 未 収 還 付 法 人 税 等 | 138     | 未 払 法 人 税 等          | 3,092   |  |
| そ の 他           | 154     | 契 約 負 債              | 4,980   |  |
| 固 定 資 產         | 53,959  | 預 り 金                | 4,958   |  |
| 有 形 固 定 資 產     | —       | 未 払 消 費 税 等          | 10,517  |  |
| 建 物 附 屬 設 備     | 12,404  | <b>負 債 合 計</b>       |         |  |
| 減 価 償 却 累 計 額   | △2,783  | 83,961               |         |  |
| 減 損 損 失 累 計 額   | △9,620  | <b>(純資産の部)</b>       |         |  |
| 建物附属設備（純額）      | —       | 株 主 資 本              | 567,346 |  |
| 工 具、器 具 及 び 備 品 | 7,886   | 資 本 金                | 263,771 |  |
| 減 価 償 却 累 計 額   | △5,774  | 資 本 剰 余 金            | 259,471 |  |
| 減 損 損 失 累 計 額   | △2,112  | 資 本 準 備 金            | 259,471 |  |
| 工具、器具及び備品（純額）   | —       | 利 益 剰 余 金            | 101,166 |  |
| 投 資 そ の 他 の 資 產 | 53,959  | その 他 利 益 剰 余 金       | 101,166 |  |
| 投 資 有 価 証 券     | 500     | 繰 越 利 益 剰 余 金        | 101,166 |  |
| 敷 金             | 39,446  | 自 己 株 式              | △57,063 |  |
| そ の 他           | 14,013  | 新 株 予 約 権            | 16,882  |  |
| 資 產 合 計         | 668,190 | <b>純 資 產 合 計</b>     |         |  |
|                 |         | 584,229              |         |  |
|                 |         | <b>負 債 純 資 產 合 計</b> |         |  |
|                 |         | 668,190              |         |  |

## 損益計算書

2024年11月1日から  
2025年10月31日まで

(単位：千円)

| 科 目                   |  | 金 額    |         |
|-----------------------|--|--------|---------|
| 売 上 高                 |  |        | 654,208 |
| 売 上 原 価               |  |        | 471,779 |
| 売 上 総 利 益             |  |        | 182,428 |
| 販 売 費 及 び 一 般 管 理 費   |  |        | 239,080 |
| 營 業 損 失               |  |        | 56,652  |
| 營 業 外 収 益             |  |        |         |
| 受 取 利 息               |  | 904    |         |
| 償 却 債 権 取 立 益         |  | 17     |         |
| 雜 収 入                 |  | 150    |         |
| 新 株 予 約 権 戻 入 益       |  | 3,137  | 4,209   |
| 營 業 外 費 用             |  |        |         |
| 支 払 手 数 料             |  | 170    |         |
| 雜 損 失                 |  | 10     | 181     |
| 経 常 損 失               |  |        | 52,623  |
| 特 別 損 失               |  |        |         |
| 減 損 失                 |  | 11,732 | 11,732  |
| 税 引 前 当 期 純 損 失       |  |        | 64,356  |
| 法 人 税、住 民 税 及 び 事 業 税 |  | 290    |         |
| 法 人 税 等 調 整 額         |  | 20,409 | 20,699  |
| 当 期 純 損 失             |  |        | 85,055  |

## ■ 株主資本等変動計算書

2024年11月1日から  
2025年10月31日まで

(単位：千円)

|                     | 株主資本    |         |         |          |         |         |
|---------------------|---------|---------|---------|----------|---------|---------|
|                     | 資本金     | 資本剰余金   |         | 利益剰余金    |         | 自己株式    |
|                     |         | 資本準備金   | 資本剰余金合計 | その他利益剰余金 | 利益剰余金合計 |         |
| 当期首残高               | 258,921 | 254,621 | 254,621 | 186,222  | 186,222 | △141    |
| 当期変動額               |         |         |         |          |         |         |
| 新株の発行               | 4,850   | 4,850   | 4,850   |          |         |         |
| 当期純損失(△)            |         |         |         | △85,055  | △85,055 |         |
| 自己株式の取得             |         |         |         |          |         | △56,921 |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) |         |         |         |          |         |         |
| 当期変動額合計             | 4,850   | 4,850   | 4,850   | △85,055  | △85,055 | △56,921 |
| 当期末残高               | 263,771 | 259,471 | 259,471 | 101,166  | 101,166 | △57,063 |

|                     | 株主資本     | 新株予約権  | 純資産合計    |
|---------------------|----------|--------|----------|
|                     | 株主資本合計   |        |          |
| 当期首残高               | 699,623  | 3,137  | 702,761  |
| 当期変動額               |          |        |          |
| 新株の発行               | 9,700    |        | 9,700    |
| 当期純損失(△)            | △85,055  |        | △85,055  |
| 自己株式の取得             | △56,921  |        | △56,921  |
| 株主資本以外の項目の当期変動額(純額) |          | 13,745 | 13,745   |
| 当期変動額合計             | △132,277 | 13,745 | △118,531 |
| 当期末残高               | 567,346  | 16,882 | 584,229  |

## **個別注記表**

(重要な会計方針に関する注記)

(1) 有価証券の評価基準及び評価方法

その他有価証券

市場価格のない株式等

移動平均法による原価法

(2) 固定資産の減価償却の方法

有形固定資産

定率法を採用しております。ただし、2016年4月1日以降に取得した建物附属設備については、定額法を採用しております。なお、主な耐用年数は以下のとおりであります。

建物附属設備 15年

工具・器具及び備品 3年～5年

(3) 引当金の計上基準

貸倒引当金

債権の貸倒損失に備えるため、一般債権については貸倒実績率により、貸倒懸念債権等の特定の債権については個別に回収可能性を検討し、回収不能見込額を計上しております。

#### (4) 収益及び費用の計上基準

当社の顧客との契約から生じる収益に関する主要な事業であるM& Aアドバイザリーサービスにおける主要な履行義務の内容及び収益を認識する時点は以下のとおりです。なお、取引の対価は、主に受注時から履行義務を充足するまでの期間における前受金の受領又は履行義務の充足時点から概ね2か月以内に受領しており、重要な金融要素は含んでおりません。また、重要な変動対価はありません。

- ・M& Aコンサルティング

M& Aに伴うコンサルティングの役務提供をしております。顧客との契約期間にわたり継続的に役務提供がなされるため、役務提供期間にわたり定額で収益を認識しております。

- ・M& A成約報酬

アドバイザリー契約の目的に基づいて業務を完了させる義務を負っております。譲渡希望者と買収希望者の間で株式譲渡、事業譲渡等に係る最終契約が締結され、株式・財産の譲渡や譲渡代金(譲渡対価)の引き渡し等が実行されたクロージング時点で、当社と顧客の間で締結した契約に定める履行義務が充足したと判断し、収益を認識しております。

#### (5) 繰延資産の処理方法

##### 株式交付費

支出時に全額費用処理しております。

#### (貸借対照表に関する注記)

##### 担保に供している資産

その他（投資その他の資産）14,000千円

10,000千円を宅地建物取引業法に基づく営業保証金として、4,000千円を仮差押の保証金として供託しております。

(損益計算書に関する注記)

減損損失

| 場所              | 用途    | 種類               |
|-----------------|-------|------------------|
| 本社<br>(東京都千代田区) | 事業用資産 | 建物附属設備、工具、器具及び備品 |

当社は、M&Aアドバイザリー事業の単一セグメントであり、全社一体としてグルーピングを実施しております。

当事業年度において、全社の営業損益が2期連続して赤字となり、回収可能性について慎重に検討を行った結果、将来キャッシュ・フローの見積り総額が当該資産グループの帳簿価額を下回ることとなったため、帳簿価額を回収可能額まで減額し、当該減少額を減損損失（11,732千円）として特別損失に計上しております。また、回収可能価額は、使用価値により測定しておりますが、将来キャッシュ・フローが見込まれないため、ゼロとして評価しております。

(株主資本等変動計算書に関する注記)

1. 発行済株式に関する事項

| 株式の種類   | 当事業年度期首   | 増加     | 減少 | 当事業年度末    |
|---------|-----------|--------|----|-----------|
| 普通株式（株） | 1,503,300 | 16,000 | —  | 1,519,300 |

(変動事由の概要)

普通株式の増加の16,000株は、新株予約権の権利行使による増加16,000株であります。

2. 自己株式に関する事項

普通株式 40,695株

3. 当事業年度末における発行している新株予約権（行使期間の初日が到来していないものを除く）の目的となる株式の種類及び数

普通株式 35,000株

## (税効果会計に関する注記)

## 1. 繰延税金資産及び繰延税金負債の発生の主な原因別の内訳

## 繰延税金資産

|           |            |
|-----------|------------|
| 敷金償却      | 545千円      |
| 未払賞与      | 9,212 //   |
| 未払監査報酬    | 1,607 //   |
| 繰延資産      | 108 //     |
| 未払事業税等    | 858 //     |
| 減損損失      | 3,592 //   |
| 繰越欠損金     | 19,877 //  |
| 繰延税金資産小計  | 35,802 //  |
| 評価性引当額    | △35,802 // |
| 繰延税金資産合計  | — //       |
| 繰延税金資産の純額 | — //       |

## 2. 法定実効税率と税効果会計適用後の法人税等の負担率との間に重要な差異があるときの、

## 当該差異の原因となった主要な項目別の内訳

|                   |           |
|-------------------|-----------|
| 法定実効税率            | 30.62%    |
| (調整)              |           |
| 住民税均等割            | △0.45 //  |
| 交際費等の損金不算入        | △0.21 //  |
| 株式報酬費用の損金不算入      | △6.54 //  |
| 評価性引当額の増減         | △55.58 // |
| 税効果会計適用後の法人税等の負担率 | △32.16 // |

## (リース取引関係に関する注記)

## (借主側)

オペレーティング・リース取引のうち解約不能のものに係る未経過リース料

|     |           |
|-----|-----------|
| 1年内 | 27,484千円  |
| 1年超 | 4,580 //  |
| 合計  | 32,065 // |

## (金融商品に関する注記)

### 1. 金融商品の状況に関する事項

#### (1) 金融商品に対する取組方針

資金計画に従って、当面必要な運転資金は、第三者割当増資により調達しております。  
投機的な取引は行わない方針であります。

#### (2) 金融商品の内容及びそのリスク

営業債権である売掛金は、顧客の信用リスクにさらされております。

営業債務である買掛金は、ほとんど1か月以内の支払期日であり、また、未払金、未払費用、法人税、住民税及び事業税の未払額である未払法人税等、預り金は、その全てが2か月以内に納付期限が到来するものであります。

投資有価証券は主に業務上の関係を有する企業の株式であり、時価又は実質価額が取得原価を下回るリスクが存在します。

敷金は、建物の賃貸借契約に基づくものであり、差入先の信用リスクに晒されております。

投資その他の資産の「その他」は、主に法務局等への供託金であり、信用リスクは僅少であります。

#### (3) 金融商品に係るリスク管理体制

##### ① 信用リスク(取引先の契約不履行等に係るリスク)の管理

当社は債権管理規程に従い、取引に先立ち顧客の信用リスクを把握し、信用リスクの高い取引先とは取引を行わない方針とするとともに、営業債権について管理部門が取引先ごとの残高を管理するとともに財務状況等の悪化等による回収懸念の早期把握や軽減を図っております。

##### ② 資金調達に係る流動性リスク(支払期日に支払いを実行できなくなるリスク)の管理

当社は、資金繰り計画を作成・更新することにより、流動性リスクを管理しております。

#### (4) 金融商品の時価等に関する事項についての補足説明

金融商品の時価の算定においては変動要因を織り込んでいるため、異なる前提条件を採用することにより、当該価額が変動することがあります。

## 2. 金融商品の時価等に関する事項

|        | 貸借対照表計上額<br>(千円) | 時価<br>(千円) | 差額<br>(千円) |
|--------|------------------|------------|------------|
| 敷金(*4) | 32,564           | 26,014     | △6,550     |
| 資産計    | 32,564           | 26,014     | △6,550     |

(\*1) 「現金及び預金」、「売掛金」、「買掛金」、「未払金」、「未払費用」、「未払法人税等」及び「預り金」は短期間で決済されるため、時価が帳簿価額に近似するものであることから、記載を省略しております。

(\*2) 市場価格のない株式等は、上表には含まれておりません。当該金融商品の貸借対照表計上額は以下のとおりであります。

非上場株式 500千円

(\*3) 投資その他の資産の「その他」に含めている供託金等は、返還の時期が決まっていないため、合理的な将来キャッシュ・フローを見積もることができないことから上表には含めておりません。

(\*4) 貸借対照表計上額との差額は、資産除去債務相当額6,881千円であります。

### (注) 金銭債権の決算日後の償還予定額

|        | 1年以内<br>(千円) | 1年超<br>5年以内<br>(千円) | 5年超<br>10年以内<br>(千円) | 10年超<br>(千円) |
|--------|--------------|---------------------|----------------------|--------------|
| 現金及び預金 | 604,150      | —                   | —                    | —            |
| 合計     | 604,150      | —                   | —                    | —            |

(注) 敷金については、返還期日を明確に把握できないため、記載しておりません。

### 3. 金融商品の時価のレベルごとの内訳等に関する事項

金融商品の時価を、時価の算定に係るインプットの観察可能性及び重要性に応じて、以下の3つのレベルに分類しております。

レベル1の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、活発な市場において形成される当該時価の算定の対象となる資産又は負債に関する相場価格により算定した時価

レベル2の時価： 観察可能な時価の算定に係るインプットのうち、レベル1のインプット以外の時価の算定に係るインプットを用いて算定した時価

レベル3の時価： 観察できない時価の算定に係るインプットを使用して算定した時価

時価の算定に重要な影響を与えるインプットを複数使用している場合には、それらのインプットがそれぞれ属するレベルのうち、時価の算定における優先順位が最も低いレベルに時価を分類しております。

(1) 時価で貸借対照表に計上している金融商品  
該当事項はありません。

(2) 時価で貸借対照表に計上している金融商品以外の金融商品

(単位：千円)

| 区分  | 時価   |        |      |        |
|-----|------|--------|------|--------|
|     | レベル1 | レベル2   | レベル3 | 合計     |
| 敷金  | —    | 26,014 | —    | 26,014 |
| 資産計 | —    | 26,014 | —    | 26,014 |

(注) 時価の算定に用いた評価技法及び時価の算定に係るインプットの説明

敷金の時価は、一定の期間ごとに区分した当該敷金の元金の合計額を国債の利回り等適切な指標に信用リスクを加味した利率を基に、割引現在価値法により算定しており、レベル2の時価に分類しております。

## (収益認識に関する注記)

## 1. 顧客との契約から生じる収益を分解した情報

(単位：千円)

|               | M& A アドバイザリー業務 |
|---------------|----------------|
| M& A 成約報酬     | 601,645        |
| M& A コンサルティング | 52,562         |
| 顧客との契約から生じる収益 | 654,208        |
| 外部顧客への売上高     | 654,208        |

## 2. 顧客との契約から生じる収益を理解するための基礎となる情報

収益を理解するための基礎となる情報は、「(重要な会計方針に関する注記) (4) 収益及び費用の計上基準」に記載のとおりであります。

## 3. 顧客との契約に基づく履行義務の充足と当該契約から生じるキャッシュ・フローとの関係並びに当事業年度末において存在する顧客との契約から翌事業年度以降に認識すると見込まれる収益の金額及び時期に関する情報

## (1) 契約資産及び契約負債の残高等

(単位：千円)

|                    | 当事業年度期首残高 | 当事業年度末残高 |
|--------------------|-----------|----------|
| 顧客との契約から生じた債権（売掛金） | 550       | －        |
| 契約負債               | 3,371     | 4,980    |

契約負債は、顧客との契約に基づく履行義務の充足に先行して受領した対価に関するものであります。契約負債は、収益の認識に伴い取り崩されます。当事業年度に認識された収益のうち、期首現在の契約負債残高に含まれていた金額は811千円であります。

## (2) 残存履行義務に配分した取引価格

当社においては、当初の予想契約期間が1年を超える重要な契約がないため、実務上の便法を適用し、記載を省略しております。また、顧客との契約から生じる対価の中に、取引価格に含まれていない重要な金額はありません。

(1 株当たり情報に関する注記)

|             |         |
|-------------|---------|
| 1 株当たり純資産額  | 383.70円 |
| 1 株当たり当期純損失 | 56.62円  |

(注) 1. 潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益については、潜在株式は存在するものの 1 株当たり当期純損失であるため記載しておりません。

2. 1 株当たり当期純損失の金額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

|                                                     |                          |
|-----------------------------------------------------|--------------------------|
| 1 株当たり当期純損失                                         |                          |
| 普通株主に帰属しない金額 (千円)                                   | —                        |
| 普通株式に係る当期純損失 (千円)                                   | 85,055                   |
| 普通株式の期中平均株式数 (株)                                    | 1,502,323                |
| 希薄化効果を有しないため、潜在株式調整後 1 株当たり当期純利益金の算定に含まれなかつた潜在株式の概要 | 新株予約権 3 種類 (新株予約権の数645個) |

3. 1 株当たり純資産額の算定上の基礎は、以下のとおりであります。

|                                  |           |
|----------------------------------|-----------|
| 純資産の部の合計額 (千円)                   | 584,229   |
| 純資産の部の合計額から控除する金額 (千円)           | 16,882    |
| 普通株式に係る期末の純資産額 (千円)              | 567,346   |
| 1 株当たり純資産額の算定に用いられた期末の普通株式の数 (株) | 1,478,605 |

(重要な後発事象に関する注記)

該当事項はありません。

# 監査報告書

## 計算書類に係る会計監査人の監査報告

### 独立監査人の監査報告書

2025年12月19日

ジャパンM&Aソリューション株式会社  
取締役会御中

EY新日本有限責任監査法人  
東京事務所

指定有限責任社員 公認会計士 月本洋一  
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 伊藤恭治  
業務執行社員

#### 監査意見

当監査法人は、会社法第436条第2項第1号の規定に基づき、ジャパンM&Aソリューション株式会社の2024年11月1日から2025年10月31日までの第6期事業年度の計算書類、すなわち、貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表並びにその附属明細書（以下「計算書類等」という。）について監査を行った。

当監査法人は、上記の計算書類等が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して、当該計算書類等に係る期間の財産及び損益の状況を、全ての重要な点において適正に表示しているものと認める。

#### 監査意見の根拠

当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して監査を行った。監査の基準における当監査法人の責任は、「計算書類等の監査における監査人の責任」に記載されている。当監査法人は、我が国における職業倫理に関する規定に従って、会社から独立しており、また、監査人としてのその他の倫理上の責任を果たしている。当監査法人は、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手したと判断している。

#### その他の記載内容

その他の記載内容は、事業報告及びその附属明細書である。経営者の責任は、その他の記載内容を作成し開示することにある。また、監査等委員会の責任は、その他の記載内容の報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

当監査法人の計算書類等に対する監査意見の対象にはその他の記載内容は含まれておらず、当監査法人はその他の記載内容に対して意見を表明するものではない。

計算書類等の監査における当監査法人の責任は、その他の記載内容を通読し、通読の過程において、他の記載内容と計算書類等又は当監査法人が監査の過程で得た知識との間に重要な相違があるかどうか検討すること、また、そのような重要な相違以外にその他の記載内容に重要な誤りの兆候があるかどうか注意を払うことにある。

当監査法人は、実施した作業に基づき、その他の記載内容に重要な誤りがあると判断した場合には、その事実を報告することが求められている。

その他の記載内容に関して、当監査法人が報告すべき事項はない。

#### 計算書類等に対する経営者及び監査等委員会の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠して計算書類等を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない計算書類等を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

計算書類等を作成するに当たり、経営者は、継続企業の前提に基づき計算書類等を作成することが適切であるかどうかを評価し、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に基づいて継続企業に関する事項を開示する必要がある場合には当該事項を開示する責任がある。

監査等委員会の責任は、財務報告プロセスの整備及び運用における取締役の職務の執行を監視することにある。

#### 計算書類等の監査における監査人の責任

監査人の責任は、監査人が実施した監査に基づいて、全体としての計算書類等に不正又は誤謬による重要な虚偽表示がないかどうかについて合理的な保証を得て、監査報告書において独立の立場から計算書類等に対する意見を表明することにある。虚偽表示は、不正又は誤謬により発生する可能性があり、個別に又は集計すると、計算書類等の利用者の意思決定に影響を与えると合理的に見込まれる場合に、重要性があると判断される。

監査人は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に従って、監査の過程を通じて、職業的専門家としての判断を行い、職業的懐疑心を保持して以下を実施する。

- ・ 不正又は誤謬による重要な虚偽表示リスクを識別し、評価する。また、重要な虚偽表示リスクに対応した監査手続を立案し、実施する。監査手続の選択及び適用は監査人の判断による。さらに、意見表明の基礎となる十分かつ適切な監査証拠を入手する。
- ・ 計算書類等の監査の目的は、内部統制の有効性について意見表明するためのものではないが、監査人は、リスク評価の実施に際して、状況に応じた適切な監査手続を立案するために、監査に関連する内部統制を検討する。

- ・ 経営者が採用した会計方針及びその適用方法の適切性、並びに経営者によって行われた会計上の見積りの合理性及び関連する注記事項の妥当性を評価する。
- ・ 経営者が継続企業を前提として計算書類等を作成することが適切であるかどうか、また、入手した監査証拠に基づき、継続企業の前提に重要な疑義を生じさせるような事象又は状況に関して重要な不確実性が認められるかどうか結論付ける。継続企業の前提に関する重要な不確実性が認められる場合は、監査報告書において計算書類等の注記事項に注意を喚起すること、又は重要な不確実性に関する計算書類等の注記事項が適切でない場合は、計算書類等に対して除外事項付意見を表明することが求められている。監査人の結論は、監査報告書日までに入手した監査証拠に基づいているが、将来の事象や状況により、企業は継続企業として存続できなくなる可能性がある。
- ・ 計算書類等の表示及び注記事項が、我が国において一般に公正妥当と認められる企業会計の基準に準拠しているかどうかとともに、関連する注記事項を含めた計算書類等の表示、構成及び内容、並びに計算書類等が基礎となる取引や会計事象を適正に表示しているかどうかを評価する。

監査人は、監査等委員会に対して、計画した監査の範囲とその実施時期、監査の実施過程で識別した内部統制の重要な不備を含む監査上の重要な発見事項、及び監査の基準で求められているその他の事項について報告を行う。

監査人は、監査等委員会に対して、独立性についての我が国における職業倫理に関する規定を遵守したこと、並びに監査人の独立性に影響を与えると合理的に考えられる事項、及び阻害要因を除去するための対応策を講じている場合又は阻害要因を許容可能な水準にまで軽減するためのセーフガードを適用している場合はその内容について報告を行う。

#### 利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

## 監査等委員会の監査報告書

### 監 査 報 告 書

当監査等委員会は、2024年11月1日から2025年10月31日までの第6期事業年度における取締役の職務の執行について監査いたしました。その方法及び結果について以下のとおり報告いたします。

#### 1. 監査の方法及びその内容

監査等委員会は、会社法第399条の13第1項第1号口及びハに掲げる事項に関する取締役会決議の内容並びに当該決議に基づき整備されている体制（内部統制システム）の状況について取締役及び使用人等からその構築及び運用の状況について定期的に報告を受け、必要に応じて説明を求め、意見を表明するとともに、下記の方法で監査を実施しました。

- ① 監査等委員会が定めた監査の方針、職務の分担等に従い、会社の内部統制部門と連携の上、重要な会議に出席し、取締役及び使用人等からその職務の執行に関する事項の報告を受け、必要に応じて説明を求め、重要な決裁書類等を閲覧し、本社において業務及び財産の状況を調査いたしました。
- ② 会計監査人が独立の立場を保持し、かつ、適正な監査を実施しているかを監視及び検証するとともに、会計監査人からその職務の執行状況について報告を受け、必要に応じて説明を求めました。また、会計監査人から「職務の遂行が適正に行われることを確保するための体制」（会社計算規則第131条各号に掲げる事項）を「監査に関する品質管理基準」（企業会計審議会）等に従って整備している旨の通知を受け、必要に応じて説明を求めました。

以上 の方法に基づき、当該事業年度に係る事業報告及びその附属明細書、計算書類（貸借対照表、損益計算書、株主資本等変動計算書及び個別注記表）及びその附属明細書について検討いたしました。

## 2. 監査の結果

### (1) 事業報告等の監査結果

- ① 事業報告及びその附属明細書は、法令及び定款に従い、会社の状況を正しく示しているものと認めます。
- ② 取締役の職務の執行に関する不正の行為又は法令もしくは定款に違反する重大な事実は認められません。
- ③ 内部統制システムに関する取締役会決議の内容は相当であると認めます。また、当該内部統制システムに関する事業報告の記載内容及び取締役の職務の執行についても、指摘すべき事項は認められません。

### (2) 計算書類及びその附属明細書の監査結果

会計監査人EY新日本有限責任監査法人の監査の方法及び結果は相当であると認めます。

2025年12月19日

ジャパンM&Aソリューション株式会社 監査等委員会

監査等委員 大山 亨

監査等委員 阿部 慎史

監査等委員 酒井 奈緒

(注) 監査等委員 大山亨、阿部慎史、酒井奈緒は、会社法第2条第15号及び第331条第6項に規定する社外取締役であります。

以 上

# 株主総会会場ご案内図



所在地

〒102-0093 東京都千代田区平河町二丁目4番1号  
都市センターホテル6階 601



※ 駐車場の用意はございません。お車での来場はご遠慮くださいますようお願い申し上げます。



交通機関のご案内

東京メトロ 有楽町線・半蔵門線・南北線  
「永田町」駅 9a・9b出口より徒歩約3分  
4番・5番出口より徒歩約4分

東京メトロ 有楽町線「麹町」駅 1番出口より徒歩約4分

東京メトロ 丸ノ内線・銀座線「赤坂見附」駅 D出口より徒歩約8分

東京メトロ 半蔵門線「半蔵門」駅 1番出口より徒歩約6分



見やすく読みまちがえにくい  
ユニバーサルデザインフォントを採用しています。